

研究代表者 所属・職：スポーツ科学部・教授

氏 名：新井 博

研究課題名：日中戦争から大東亜戦争突入時期におけるスキー活動について

### 研究の概要

目的は、日中戦争下の昭和 15 年 1 月から昭和 16 年 12 月まで、また続く太平洋戦争に突入した昭和 17 年 1 月から 3 月までの時期に、選手たちと市民によるスキー活動の特徴を明らかにすることである。方法は、選手が参加した全日本スキー選手権大会での活動と市民が参加した「全国皆スキー行進」と「全国皆スキー講習会」の各県の取組みを解明して、前期(日中戦争下)と後期(太平洋戦争突入時期)における全国的な選手と市民のスキー活動を解明する。

留意点は、日本最高峰の競技会である全日本スキー選手権大会(本選)へ向けて各地方で開催された予選会(北海道、東北、信越、関東、北陸、関西、中国地方)に焦点を当て主催、参加、種目などの分析を通してその特徴を解明した。また一般市民の活動については、同時期に北海道、東北、信越、関東、北陸、関西、中国地方で厚生省とスキー連盟により全国的に開催された市民の『全国皆スキー行進』と『全国スキー講習会』に焦点を当て日時、主催、場所、行進内容から特徴を解明した。つまり戦時下のピンポイントの詳細ではなく、当該時期における選手と市民の全国的なスキー活動の様子である。

### 達成状況・成果内容

本研究では 2023 年度の夏・冬季休暇などの時間を利用して、本テーマに関する歴史資料の全国的な収集を実施した。東北地方(青森県、秋田県、岩手県、山形県、宮城県、福島県)、関西地方(大阪府・兵庫県・京都府)、中国地方(岡山県、広島県、山口県、島根県、鳥取県)の県立図書館(郷土資料室)・資料館(県歴史文書館)・道府県スキー連盟・個人・他において、各 3 日間程度に渡り資料を収集した。選手・市民の活動に関する記事を各地の新聞・スキー史(誌)から拾う作業を行った。またスキー普及・促進の行政文書を、地方の文書館で教育行政資料から収集した。更に、収集した資料を読み進め、内容・地方・年代毎の資料整理(ファイリング)を行ってきた。しかし、各道府県での調査において直接伺えない場合については、東京の国立国会図書館・国立文書館などにおいて関連する資料の収集を行った。

2024 年 1 月以降に、収集整理した資料を基にして、前期・後期における選手たちの活動と市民の活動について分析を始めた。

分析により前期・後期について、以下のことが明らかになってきた。

前期(昭和 15 年 1 月-昭和 16 年 12 月)は日中戦争において先の見えない状況下にあった。選手や市民のスキー活動は平時における活動に比べ、政府(厚生省)による統制下に置かれていた。厚生省は銃後の備えとして「精神作興・体力養成」を国民の目標に掲げていた。その下で、選手たちの活動は日本最高峰の全日本スキー選手権大会(全日本スキー連盟の開催)に参加して、府県のために奮闘していた。一方で、降雪地方の一般市民は、新たに連盟による全国的な「全国皆スキー行進」や「全国スキー講習会」に参加していったのである。

大正 12 年より開催された全日本スキー選手権大会は、本来オリンピック選手の選出や全国の競技力の向上が目的であった。だが、日中戦争で 1940 年開催予定の東京オリンピック大会を昭和 13 年に IOC に返上したことから、この時期から競技力向上の目的は失速し、国民体力の向上を目指した。競技内容は戦時色を強めていき、従来の距離競技、滑降競技、回転競技、継走競技といった種

目に対して、昭和 15 年からは明治神宮大会と兼ねた大会となり、新たに団体競走(鉄道、通信、営林の各局対抗、青年団、工場鉱山、警防団の各県対抗)、軍隊競走(陸軍及び海軍の各伝令競走、各斥候競走、在郷軍人競走)などが実際的な戦時での有効な競技として加わった。つまり、純粋な競技会から離れていった。

また「全国皆スキー行進」は、昭和 14 年から全国の降雪地方で市民のスキーの統制と体力向上のために実施された。毎年 2 月 26 日が国の「全国皆スキー行進」の日と決められ、各道府県で 26 日(当日・前後)に合わせて、行進が全国一斉に実施された。各会場では、開会式が中央会場(長野県霧ヶ峰)とラジオでむすばれて全国一斉に開催された。続いてスキー行進や講習・練習が、会場毎に実施された。「全国スキー講習会」は、昭和 14 年に市民によるスキーの技術や意識を統制するために、テキスト(『一般スキー要項』)を基に講習会が開催された。樺太から中国地方まで 40 ヶ所(スキー場)で開催され、約 4000 名のスキーヤーが参加し、バッチテストを受けている。バッチテストに 1 級 148 名、2 級 525 名が合格し、以後地方で講習の講師として統制を図る一翼を担った。

後期は、太平洋戦争に突入(昭和 16 年 12 月 8 日)し、戦争(戦場)は拡大し国民の生活は全く余裕を失っていた。スキー界も選手の出征や連盟の弱体から、選手としての活動は昭和 17 年 2 月の明治神宮大会(選手権大会と統一)が辛うじて開催されたに過ぎなかった。また市民の「全国皆スキー行進」や「全国スキー講習会」は前期のように多くの県で開催されることはなくなり、県における市民による耐寒訓練のスキー行軍として僅かに実施されただけであった。

このようにみえてくると、選手と市民の戦争下でのスキー活動は、日中戦争下では全国的に盛んに行われた。だが、太平洋戦争下に入ると、全国的な取り組みは僅かに行われる程度となっていったといえよう。

#### 【学会発表】

- ・新井博 (2024.3) 「日中戦争下での体力養成から大東亜戦争下での戦技スキーへー東北地方の山形県・北陸地方の福井県・中国地方の鳥取県の場合ー」日本スキー学会第 34 回大会(長野県)
- ・新井博 (2024.3) 「日中戦争・太平洋戦争下でのスキー活動」日本スポーツ産業学会(スポーツ産業史研究大会・東京理科大学)